

KMC、センサー独立型

金型表面温度 高精度測定システム

【川崎】KMC（川崎市高津区、佐藤声喜社長）は、射出成形金型やプレス金型の表面温度測定システム「サーモモニタリン」に、小型センサーユニットが独立したタイプを追加し、出荷を始めた。

測定対象物の近くにセンサーユニットを配置できるため、解像度を高めることができる。金型構造内の狭い空間への設置や測定精度の向上に寄与する。消費税抜きで価格は管理ソフトウェア込みで85万円。



センサーユニット（手前）を独立させたサーモモニタリン

し、データをリアルタイムで送信するシステム。金型の温度変化を分析し、不良原因の熱だまりなどを解析できる。これまで200台以上の販売実績がある。

従来、センサーはデータ送信などを担う本体に内蔵されていた。今回はセンサーユニットを独立させた。ケーブルで本体に接

続するため、「ケーブル式サーモモニタリン」の名称で販売する。センサーユニットのサイズは奥行き33ミリ×幅44ミリ×高さ28ミリ。